

# 緊張感を失念することなく

—— 海外安全管理担当となって心がけたこと

責任の重さを感じながら未経験の業務を早期に立ち上げるため取り組んできたこととは。

NEC マネジメントパートナー株式会社

海外安全・危機管理担当 **徳岡恒和**

## システムエンジニアからの転身

NEC では人事関係部門、および海外事業部門を中心に海外緊急安全対策本部を構成している。私は2017年1月から人事関連業務の一部を担うNEC マネジメントパートナーに所属し専任で海外安全・危機管理を担当している。実務経験は2年半にすぎず、5年、10年と本業務を担当している方々がいるこの分野では、まだまだ新米である。

NEC グループでは5つの地域統括会社を中心に海外展開している。世界約100カ国へ社員が出張し、現地法人への出向者も多数おり、その責任の重さを改めて感じている。

本業務の前は無線通信システムエンジニアとして海外案件(地方での案件含む)、プロジェクト管理、緊急時対応等を経験してきた。

分野は違うものの、これらの経験を活かすことが自身の武器と考えつつ、NECの安全・危機管理機能の全体像を理解すること、常に何らかの仮想訓練をすること、そして組織力を活かすことを念頭に、私自身にとっての新たな業務を早期に立ち上げることを目指してきた。

## 安全管理機能の早期把握・理解

NECの安全・危機管理機能について、すでに整理された資料はあったが、1日も早く理解し身につけられるよう私が最初に着手したのは、簡単なテンプレート(①平時の予防・準備、②緊急時対応)に機能とその条件を書き出してみることであった。大項目・中項目・小項目とカテゴリーを自身で設定し、追記・修正が簡単にできるようPC上のExcelを活用した。当然、自己理解とすでに整理された資料との間には差異が生じたが、この違いを認識できたことは非常に有意義だった。既存資料で整理されている内容について、それらの理由・背景・位置付けを考え、理解するきっかけになった。業務引継ぎにおいても確認点が明確にできた等の効果があったと感じている。

緊急時の対応では、連絡網整理の他に契約しているコンサルタントとの契約条件も箇条書きにして同じ紙面に整理してみた。こうすることで、やみくもにコンサルタントとの契約条件を読むより、自社の連絡体制等の現状を念頭にコンサルタントの支援サービスを理